

平成30年度 福岡市総合教育会議

○日 時

平成31年3月14日（木）午前9時54分～10時50分

○場 所

能古小・中学校 体育館

○出席者（7名）

市長 高島 宗一郎

教育委員会 星子 明夫（教育長）

阿部 晶子

木本 香苗

町 孝

菊池 裕次

原 志津子

○事務局

〔総務企画局〕 光山 総務企画局長

鈴木 企画調整部長

〔教育委員会〕 高田 教育次長

小田原 理事

藤田 総務部長

西村 教育環境部長

青木 教育支援部長

深堀 指導部長

中村 教育センター所長

中川 事業管理部長

議事次第

1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 議事

（1）協議事項

ア 第2次福岡市教育振興基本計画の概要について

イ 平成31年度教育委員会の主な取組み（案）について

- ・ICTを活用した教育の推進
- ・能古小・中学校における小中一貫教育の開始
- ・教育相談・支援体制の充実

(2) その他

5 閉会

○協議・調整が行われた事項

(1) 協議事項

ア 第2次福岡市教育振興基本計画の概要について

教育委員会から、第2次福岡市教育振興基本計画の策定の趣旨や経緯、内容を説明し、市長が策定する「教育の振興に関する施策の大綱」について、市長、教育委員とともに策定中の第2次計画をもって大綱に代える方向で協議・調整を行った。

イ 平成31年度教育委員会の主な取組み(案)について

① ICTを活用した教育の推進

教育委員会から、全ての市立学校が日常的にICTを活用できるよう、普通教室へのプロジェクタの設置やタブレットの整備などを進めていくこと、

また、福岡市独自の教育専用クラウドを構築し、優れた教材を全市で共有、活用することで、子どもたちの学力向上、教員の指導力向上や負担軽減につなげることを説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・通信環境が整った今、ソフトや活用の仕方が大事になるため、活用の工夫を期待したい。
- ・先生たちが機器を十分に使いこなすための研修が大事である。

②能古小・中学校における小中一貫教育の開始

教育委員会から、動画を使って能古小・中学校の魅力について、最先端のICT環境の整備をはじめ、英語教育の充実、能古島の自然、歴史、文化を生かした「ふるさと科」の創設などを説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・能古島の特性を生かした地元の人との触れ合い、農業体験、海を生かした経験、こういった独自の教育がこういった形で子どもたちの成長を後押ししてくるか本当に楽しみである。

③教育相談・支援体制の充実

教育委員会から、いじめや不登校、虐待など、様々な問題の未然防止や早期発見のためにLINEを活用した相談事業を開始すること、

また、市立高校における通級指導教室の開設、小中学校における医療的ケア支援の開始など、様々な形で子どもたちへの支援体制の充実を図っていくことを説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・千葉県野田市の小学校4年生の児童虐待のような悲惨な事件を起こさせないために、いじめのアンケートに虐待の項目を追加したり、SNS等を活用した教育相談においても学校のことだけではなく、家庭のことも子どもたちが書けるようにするなどSOSをきちんとキャッチすること。

(2) その他

特になし

【鈴木企画調整部長】 皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、これより平成30年度福岡市総合教育会議を開催いたします。私は、本日の進行を務めさせていただきます、総務企画局企画調整部長の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、高島市長からご挨拶をお願いいたします。

【高島市長】 改めまして、おはようございます。教育委員の皆様におかれましては、日頃から福岡市の教育行政に多大なるお力添えをいただき、この場をお借りいたしまして、改めて感謝を申し上げたいと存じます。

さて、今回で5回目となる総合教育会議でございますが、今日の会場は、福岡市で初めての小中一貫校となります能古小・中学校です。

事前に見学をさせていただきましたが、このようなすばらしい眺めの中で勉強ができる子どもたちは本当に幸せだなと思いますし、これからまた、観光の能古島から、観光と教育の能古島に変わっていく。この自然をふんだんに生かして教育の中にも取り入れるという形、それから、小中一貫での独自のプログラムで自由度を増す中で、その個性を生かした教育をしていくということで、開校が大変楽しみであります。

福岡市は、毎年のように新しい小学校が開校するというような、こういう街は全国的にも極めて珍しいと思うんですけども、それだけに、毎年、教育委員会や施設を建設・設計していただいている皆さんの、ここをより改善した方がいいのではないかというノウハウもたまってきていまして、より良い形で学校ができているのは非常に嬉しいことだと思っております。

さて、これまでもこの総合教育会議、もしくはいじめゼロサミットの中で、子どもたちをいじめ等からしっかり守っていくというようなお話をしてきましたし、また、大人を信頼して、是非メッセージを発信してほしいということも繰り返しお話をしているわけですが、残念ながら、千葉県野田市で痛ましい虐待があったわけです。これは、学校現場で起きているいじめだから教育委員会で、これは家庭で起きている虐待だから児童相談所ということではなくて、子どもたちを守るという点ではみんな一緒なわけですから、その子どもたちのSOSを、学校の間でもキャッチできる仕組みが大事だと思うんです。

例えば、これまで学校で行われているいじめに関するアンケートで、学校でいじめられていませんかとか、自分の物が傷つけられたり壊されたりしていませんかというようなアンケートがあったんですが、先日、事件が起きた後すぐに、教育長、それから児童相談所の皆さんも一緒になってお話をし、学校の中だけでなく、例えば、家の中でいじめられ

ていませんかとか、親からいじめられていませんかというような項目を是非入れてくださいということで、早速、教育委員会のほうでご検討いただいたようでございます。やはり、教育の場、家庭の場、それから地域が一体となって、子どもたちをみんなで守っていくことが肝要かと思っておりますので、是非、教育現場でも、地域のこと、家庭のことも垣根なく、そうした情報をキャッチして、キャッチした情報はしっかり関係者間で共有して、子どもたちをみんなで守っていくことができればと考えております。

平成31年度の予算は、サポートが必要な子どもたちのためにというテーマで編成し、昨日、議会も通過いたしました。そんな中で、子どもたちが、例えば、人に電話をして相談するというやり方もあるんですが、それに少し躊躇がある子どもは、人に直接話さなくてもいいSNSを活用してこうした情報を発信できるという新しいチャレンジもスタートしよう、そんな予算も昨日決まったところでございます。

また、その他も含めて、今日は子どもたちを巡るいろいろな課題を一緒に共有し、思いを一つにして、これから教育委員会と市が一緒になって進めていければいいと思っておりますので、忌憚ない意見交換をしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【鈴木企画調整部長】 ありがとうございます。

続きまして、星子教育長からご挨拶をお願いいたします。

【星子教育長】 皆さん、おはようございます。

教育委員会を代表いたしまして、会が始まる前に一言ご挨拶を申し上げます。

まず初めに、ここ能古小・中学校校舎の改修工事も無事終わりました。来月から、能古島の魅力あふれるこの場所で福岡市初の小中一貫教育を始められることを大変うれしく思っております。

しかしながら、その一方で、今日の子どもたちを取り巻く状況は、いじめ、不登校、様々な難しい問題がございます。とりわけ親から子どもへの虐待は社会問題にもなっております。先ほど市長からのご挨拶にもありましたとおり、千葉県野田市の児童虐待事件については、私どもも大変心を痛めております。虐待をはじめ、サポートが必要な子どもたちに対しては、これまでも市長の心強い後押しをいただきながら、スクールソーシャルワーカーの全中学校に配置、不登校対応教員やスクールカウンセラー等との連携による支援体制を充実させるなど、さまざまな施策に取り組んでまいりました。

このような痛ましい事件の発生を受けて、これまでの取り組みをいま一度見詰め直して、さらに一歩踏み込んで取り組んでいく必要があると考えております。未来を担う子どもた

ちのために、市の関係部署や外部関係機関としっかり連携を図りながら取り組んでまいりたいと思います。

本日でございますが、教育相談、支援体制の充実をはじめ、能古で始める小中一貫教育やICTを活用した教育の推進など、学力向上の取り組みはもちろんのこと、教員の働き方改革などについても市長と意見を交換させていただき、教育行政のさらなる前進と充実につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

【鈴木企画調整部長】 ありがとうございます。

それでは、議事に移りたいと思います。

手元に資料をお配りしておりますが、その1枚目、A4の次第に書いております4の議事(1)協議事項にございますが、本日はア、イの大きく二つの協議事項について意見交換をお願いしたいと考えております。二つ目のイの協議事項につきましては、項目が三つございますが、それぞれ項目ごとに教育委員会から説明を受けられた後、意見交換を行うという形で進めていきたいと思っております。

会議終了は10時50分頃を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、一つ目の協議事項、「ア、第2次福岡市教育振興基本計画の概要について」でございます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定におきまして、市長は、教育の振興に関する施策の大綱を策定する義務があることとされております。福岡市におきましては、平成27年6月5日に開催いたしました総合教育会議におきまして、現在の教育振興基本計画でございます「新しいふくおかの教育計画」をもって大綱に代えることといたしております。その「新しいふくおかの教育計画」の計画期間が平成30年度まででありまして、このたび、教育委員会におかれまして、第2次福岡市教育振興基本計画の策定が進められている状況でございます。

まずは、その概要について教育委員会事務局からご説明をお願いいたします。

【藤田総務部長】 総務部長の藤田でございます。第2次福岡市教育振興基本計画の概要について説明をさせていただきます。恐れ入りますが、座って説明をさせていただきます。

概要版での説明に入ります前に、計画策定の趣旨と、この原案の策定までの経緯について簡単にご説明をいたします。

まず、計画策定の趣旨でございますけれども、教育基本法に基づき、各教育委員会にお

いても、その地域の実情に応じて、教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めることとされております。福岡市におきましては、平成21年6月に策定した「新しいふくおか教育計画」を福岡市における教育振興基本計画と位置づけておりますが、その計画期間が今年度をもって終了することから、第2次となる計画として策定を進めてきたものでございます。

次に、策定の経緯でございますが、この原案の策定に当たりましては、教育委員による協議、学識経験者や学校現場の校長先生方を委員とした有識者会議、校長・園長・役員連絡会での意見交換、議会の報告と学校現場を含みますたくさんの方のご意見をいただきながら検討を重ねてきたものであり、また、企画調整部や財政局、こども未来局とも随時協議、調整を行い、福岡市全般にわたります福岡市基本構想、福岡市基本計画、政策推進プランとも整合が図られているものと考えております。

それでは、計画の内容をご説明いたします。資料1の概要版をお開きいただきまして、見開き3ページをお願いいたします。

本資料は、「その計画の全体構成が1枚でわかるように」をコンセプトに作成しており、策定後は、全ての教員、保護者へ配布し、計画の周知を図っていきたいと考えております。

まず、資料上段中央の計画の範囲でございますが、現行計画と同様でございます。

その右の計画の期間は、社会の変化のスピードに対応するため、現行計画の10年から6年へと見直しを行っております。

左上の教育の目標となります「めざす子ども像」でございますが、「やさしさとたくましさをもち ともに学び未来を創り出す子ども」を新たに掲げております。「やさしさ」や「ともに」といった部分は、本市のマスタープランに記載されている内容やユニバーサル都市・福岡の推進とも結びつくものと考えております。

次に、その下の福岡スタンダードでございますが、福岡の子どもたちに大切にしてほしいこととして、新たに「とも学」と「チャレンジ」のキーワードを加え、「あいさつ・掃除」を生活習慣の柱、「自学・とも学」を学びの柱、「チャレンジ・立志」を未来への柱として、進化、発展させております。全市立学校へ大きな方向性として示すとともに、各学校においては、スタンダードで示した3本柱について、子どもの発達段階に応じた特色ある取り組みにつなげていきたいと考えております。

次に、その下の子どもをはぐくむ各主体の姿や役割でございますが、記載の内容の見直しは行っておりますが、学校、家庭、地域、企業等の各主体が責任を持ち、連携してとも

に子どもを育てていくという大きな「とも育」という考え方につきましては、引き続き継続するものでございます。

次に、資料の中央になります福岡スタイルでございますが、計画期間の6年間、特に重視する教育の方法としまして、その上下に記載しております1～17の施策を貫く柱として新たに掲げております。1の9年間を見通した小中連携では、小学校の段階で複数教員による指導や習熟度別指導により、確かな学力の定着を図るとともに、小学校から中学校への円滑な接続を図り、小中がしっかりと連携して義務教育9年間を見通した教育活動を実施していきたいと考えております。

次に、2の子ども・家庭への支援では、平成29年、30年度と拡充配置をしてきました不登校対応教員や、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーによる教育・心理・福祉の専門スタッフが連携し、不登校やいじめ、虐待、貧困などの様々な課題を抱える子どもや家庭を支援していきたいと考えております。

次に、3のICTを活用した教育活動の充実では、児童生徒の学力向上のみならず、教材の共有化などにより教員の負担軽減も図っていききたいと考えております。この後の平成31年度教育委員会の主な取組みでもご紹介させていただきたいと考えております。

次に、施策でございますが、対象別に1～17まで施策とそのねらい、主な取り組み内容、主な評価指標を掲げております。これまでの取り組みの継続性をベースにしつつ、新たに施策8の読書活動の推進や、施策13のコンプライアンスの推進を加えております。また、学校における働き方改革につきましては喫緊の課題として認識しておりまして、施策15の教員が子どもと向き合う環境づくりにおきまして、教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう共同学校事務室や校務の情報化、部活動指導員などの専門スタッフの配置など、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

最後に、本原案は、今後3月22日からパブリックコメントを実施し、広く市民の皆様のご意見を伺う予定としております。本年の6月策定に向けて最終段階となってまいりましたが、引き続き、第2次計画はよりよいものとなるよう努めてまいります。

簡単ではございますが、第2次福岡市教育振興基本計画の概要についての説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

【鈴木企画調整部長】 ご説明ありがとうございました。

それでは、これより協議に入りますけれども、先ほど申し上げましたとおり、教育の振興に関する施策の大綱につきましては市長に策定義務がございますので、今後の大綱の取

扱いにつきまして、高島市長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【高島市長】 はい、わかりました。では、進めさせていただきます。

今、お話がありましたとおり、この大綱の策定については、法律に基づいて私が策定をすることになっているんですが、まずは教育委員の皆様からのご意見もお伺ひしたいと思います。いかがでしょうか。

【星子教育長】 わかりました。それでは、この件は私から申し上げたいと思います。

計画の策定に当たりましては、福岡市のマスタープランや政策推進プランとの整合を図っているのはもちろんのこと、教育分野の基本方針を記載するものとして、市民、保護者、教員へのアンケートをはじめ、市議会や学校現場など、さまざまな方から幅広くご意見を頂戴して策定している状況でございます。

また、法規上も市長が策定する大綱、教育委員会が策定する教育振興基本計画、どちらも国の同じ計画を参酌して策定するものでございます。また、総合教育会議において、協議、調整し、教育振興基本計画をもって大綱に代えることができるものとの考えも文部科学省から示されているところでございます。

こうしたことから、この第2次福岡市教育振興基本計画をもって大綱に代えることができるのではないかと考えています。

以上です。

【高島市長】 ありがとうございます。教育委員会からのお話を聞かせていただきました。

福岡市としては、まず、福岡市の大きな方向性を決めるマスタープランというものがありまして、それに基づいた政策推進プランがあつて、また、それを具体的に落とす施策があつてという、そういった構成になっているんですけれども、現在策定中の第2次福岡市教育振興基本計画は、こうした福岡市の大きなマスタープラン並びに政策推進プランの方向性とも一致していると思いますし、また、今後の家庭への支援ですとか、ICTを活用した教育活動の充実といったものも盛り込まれております。さらには、昨今の働き方改革じゃないですけれども、教員の負担軽減という視点もしっかり考えられて盛り込まれているということでもありますので、大綱については、引き続き、第2次福岡市教育振興基本計画をもって代える方向で良いのかなと思うんですが、教育委員会の皆さん、それでよろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

【高島市長】 わかりました。では、その方向でさせていただきたいと思います。引き続き、策定作業を進めていただいて、より良い計画になるようによろしくお願いいたします。

【鈴木企画調整部長】 ありがとうございます。

それでは、続きまして、二つ目の協議事項、「平成31年度教育委員会の主な取組み(案)について」の「ICTを活用した教育の推進」につきまして、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

【深堀指導部長】 ICTを活用した教育の推進についてご説明をさせていただきます。

まず、取り組み内容につきまして、3分程度の映像にまとめておりますので、そちらをご覧ください。

(動画上映)

【深堀指導部長】 ありがとうございます。今、ごらんいただきましたように、子どもたちの確かな学力の習得や教員の勤務の長時間化、指導力の確保など、学校における様々な課題に対応するため、平成31年度よりICTを活用した教育活動の充実に取り組んでまいります。

まず、各教科の授業で日常的にICTを活用できるよう、普通教室へのプロジェクタの設置や、タブレット整備など、教員がいつでもICTを活用できる環境の整備を進めてまいります。

あわせて、福岡市独自の教育専用クラウドを構築し、先進的な実践校で使用した教材や教員による自作教材など、これまで個別に活用してきた優れた教材を全市で共有し、活用していくことを可能といたします。

また、クラウド環境を活用して授業を補う効果や優れた授業などの動画コンテンツの配信、また、円滑な遠隔授業の実施など、いつでも、どこでもつながる教育環境の提供に取り組んでまいります。

さらに、教員のICTを活用した指導力の向上を図るため、さまざまな研修の実施やICTを活用した授業実践事例の紹介など、教員がICTを活用していくためのサポートを行うなど、子どもたちの学力向上、教員の指導力向上や負担軽減を実現できるよう、しっかりと取り組んでまいります。

説明は以上でございます。

【鈴木企画調整部長】 ありがとうございます。それでは、意見交換をお願いいたします。

【高島市長】 今、映像にまとめていただきましたICTというものですけれども、今は通信環境が劇的に変わったことが非常に大きなインパクトがあって、私もよく遠隔で会議をするんですが、例えば、仮に入院をして学校を休んでいたとしても、体は動かないけれども、頭は普通にすっきりしている、でも学校に行けない子は、学校の様子が見えたら、入院先からでもずっと授業を見ることもできます。

また、あの授業がよくわからなかったという話で、もし、もう一度同じ授業を家で見ることができたり、もしくは、よりおもしろい、わかりやすい教え方の授業をみんなで共有すれば、子どもたちが、また違う先生の違う視点からの教え方を見て理解をすることもあられるでしょう。

そういった意味では、通信環境が整った今、こうしたICTを導入していくのは、教員の皆さんにとっても子どもたちにとっても、きちんと使えば非常にウィン・ウィンになると思うんです。そのためにも、ソフトが大事だし、それをどう活用するかが大事になると思うんです。これからのそうした活用の工夫に期待したいと思います。

また、「福岡 TSUNAGARU Cloud (つながるクラウド)」は素晴らしいと思うんですが、家庭に、例えばパソコン環境がない、iPadのようなタブレットがない子たちにはどういう対策をとるのかを教えてもらってよろしいでしょうか。

【深堀指導部長】 まず、家庭にパソコン環境がない場合でも、学校のパソコン教室を放課後開放するなどして、学校で操作することができるとか、あるいは、これから先、クラウドでストリーミングができるようになりますけれども、パソコンだけではなくスマートフォンで見られるような形にもしますので、例えば、保護者のスマートフォンを使って見ることができるなどで対応できると考えております。

【高島市長】 アクセスは誰でも自由にできる感じですか。

【深堀指導部長】 基本は自由にできる形で考えておりますが、例えば、パスワードの発行などをして、ある程度守られるような環境もつくりたいと考えております。

【高島市長】 学び直したいという人、例えば私もそうなんですけれども、歴史の授業をもう1回聞いてみたいとか、そういう学び直しで一般の人がそこにアクセスして授業を聞くことはできるのでしょうか。

【深堀指導部長】 もちろん、今後の課題にはなると思いますけれども、授業実践を十

分蓄えることができますので、その様なことも可能になると考えております。

【高島市長】　　そうですか。もしかしたら、学び直したいと思っている人って、実はたくさんいるんじゃないかと思っていて、これからの生涯学習、生涯学び続けるという意味でもいいのかなとちょっと思いました。

それから、これは、先生たち自身がこうした機器を使いこなしていくことができたときに初めて、子どもたちにも伝わると思うんですね。これまでの教科書に書いてあるものだけではなく、動画というのは知性プラス感性にも非常に影響を与える、そういう意味では感覚的につかめたというところが、さらにもう1回教科書に戻ったときの深い理解につながることもあると思うんです。先生たちがこの機器を十分に使いこなすという点において、何らかの研修とかは計画されているんでしょうか。

【中村教育センター所長】　　失礼いたします。教育センターでございます。

これだけの環境を整えて、教員が使えないと何も意味がないと思っておりますので、まずセンターを中心にしっかり研修を行っていきたいと思っておりますが、これの一つの方策として、教員の負担軽減等もございます。子どもたちと向き合う時間を削ってまでセンターに来ていただくことをあまり重視しないで、まず校内研修を充実させていきたい。そのためには、私どもセンターの指導主事が学校に出向いてしっかり教育現場の先生方に指導していきたいと思っております。

また、もう一つ、実はセンターの中に1部屋教室と同じような環境を整えております。要望のある方はそちらに来ていただいて、しっかり説明を行いたいと思っております。何よりも、教員の指導力、活用能力をつけていきたいと思っております。

以上でございます。

【高島市長】　　是非お願いします。私はこういうのはよくわからないと言って、全く使わない先生が出てこないように、せつかくこれを導入したんですから、活用をお願いします。

教育委員の皆様からご意見のある方はどうぞ。

【町委員】　　教育委員の町でございます。

私、教育委員を拝命してもう6年過ぎようとしています。当初から、特に福岡県、福岡市の場合はICTの導入が遅れているのではないかと言いつけてまいりました。今回やっと予算づけをしていただきました。文科省の『教育委員会月報』からのデータをとりましたが、残念ながら、福岡市も入ったところの福岡県は全国レベルで相当下位です。項目の

中には最下位のものもあります。そういう中で、これからは本当に世界で生きていくためにも、このICTの活用は国家的な課題でもあります。

実は、文科省自体も、2018年から2022年までにおいて、ICTをほんとうに真剣に取り組んでいきたいという方針も出しておられますので、今回、こういったものに力を入れていって、しかも現場の先生方にとっても使いやすい、先ほど市長がおっしゃいましたように、ベテランの人に、いやいや、これはちょっと俺は苦手だなと思われることがないように、産業界に比べると教育界はこの点がやや遅れているなという感じがしたものですから、今後、私たちも声を大きくして、こちらが進んでいくように、教育委員、委員会の事務局の方も含めて頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご支援をお願いします。

【高島市長】 わかりました。これまで少し遅れていたという話がありましたけれども、技術が日進月歩で変わっていつているので、逆に、早くやっているところは今は結構古くなっているという逆転の発想で、これから是非、教育委員会の皆さんには期待をしています。

ほかにございますか。

【菊池委員】 ずっと町委員と同じような気持ちでございました。私は18年ほど現場で中学校の教員をしていました。その時から考えたら、戦後、昭和22年に中学校が発足したんですが、それ以来ずっと、教室には黒板しかなかったんです。今現在もそうです。能古とか一部の学校は別ですけれども。それが2年間で一気にICTが整備されるということは本当に驚きで、感謝しております。

現場的に言いますと、教員とこの話をすると、自分たちはICTがないから、まずチョーク、それからトーク、つまり上手にお話をする。時々ジョークを言って教室を盛り上げていく。なので、チョークとトークとジョークで俺たちはやっているんだというようなことをよく言っておられたんですね。それにICTが加わったら、本当に鬼に金棒じゃないかなという気がします。

心配なのは、おっしゃるとおり、どれだけ早い段階で使いこなせるようになるかです。これは、若い先生とか意欲のある先生は既に自分でプロジェクタやスクリーンを買ってやっているわけです。だから、そういう先生を中心にぼっと広まっていくんじゃないかと思っておりますので、本当によかったなと思っております。感謝申し上げます。

【高島市長】 ありがとうございます。実は、今回、教育委員会から予算のお話があっ

たとき、とにかくプロジェクトを入れることが目的ではないと。あくまでも、そこで何を
するかというところが大切なのでという話をして、教育委員会のほうでも、先進都市の視
察に行ったりしながら、こういう教育をしたいという話をしっかりして、その上で今回予
算化したということでございますので、大変期待をしています。

それで、こうしたICTフレンドリーな世代と、ふだんプライベートでも全く触らない
方の格差は出てくると思うし、そこには、もしかすると、これまでの教員としてのキャリ
アと反比例するところがあるかもしれないですね。ここを是非、例えば、先ほど学校の中
で教え合うという話がありましたが、ふだんなかなか大ベテランで話しかけづらいよう
な方でも、逆に、若い先生のほうがそうした分野に関しては教えるというような形で、これ
を通して、教員の間でもコミュニケーションが広がればいいなと思います。

一つ大きく劇的に変わるだろうと思うのが、今、トークとジョークというお話がありま
したけれども、要するに、これまではアートだったと思うんですね。大体、先生と言われ
る世界は、学校も医療もそうなんです、アートとかセンスだったものが、これからは結
構エビデンスベースになって、例えば、どの教材を使った場合にそれがどれぐらいの習熟
度につながってくるということも可視化されてきたりとか、これまでのように、先生の感
覚というところだけではなくて、そういう意味では、かなり教育にもエビデンスベースが
入ってくるようになるんだろうなと。そうなってくると、多分、その分析をしっかりと
することによって、どういう教え方、どういうアプローチが一番子どもたちの習熟に繋が
っていくのかということにもなると思うので、これから、そういう形で福岡の教育にとっ
ても、教員の皆さんの負担軽減にとっても、そしてまた、新しい学校ができると、私はよく
「切磋琢磨」という言葉を書いてその学校に送るんですが、実は、先生たちの間でも切磋
琢磨が起きてくるんじゃないかなと。みんなにとってのウィン・ウィンになることを期待
します。

ほかにご意見ございますか。

【木本委員】 1点だけよろしいですか。先ほどの「福岡 TSUNAGARU Cloud (つながる
クラウド)」という、箱物ができて、中身が充実しないことには、これを使っていく方向に
ならないということで、先日、教育センターの発表会にお伺いしたときに、ちょうどこ
ういう情報分野を研究されている先生方の研究発表の場に居合わせて、こういった箱が
できたときに、その中に優れた教材が入っていくのを、いかに検索して取り出しやすく
するという議論にもなったんですね。ですから、そうやって、こういう箱物が整備された後の

活用という面で一生懸命考えて、使い方を研究されている先生方がいらっしゃるのを、私は頼もしく思いました。ですから、そういう先生が研究した成果ができるだけ早く、各校へ推進していただくリーダーとなる先生方に伝わり、そこからまた、現場の先生方にどんどん広がるという、スピード感を持ってやっていくことも、教育委員会では頑張っていきたいと思っています。

【高島市長】 今のご意見を聞いて、確かにおっしゃるとおり、クラウドにどれだけたくさんソフトが入っていくかが大事になってくる中で、例えば、子どもたちみんながつまずくポイントみたいなどころがあると、その部分をテーマにした動画を募集して、上手な教え方というか、いい動画をつくることを競うようにして、例えば若い先生なりにも、自分たちが得意なところを使って、一番の教材をつくった方を表彰すると。特にみんながつまずくところをテーマにして、わかりやすい動画なんかをつくっていくこともあるかもしれないし、是非、こぞって、このクラウドの中にソフトがたまっていくような仕組みを考えていただければと思います。

【阿部委員】 クラウドの中にたまっていくのもいいんですけども、私は、どんどん新しくならないとICTの意味がないのかなと思うので、ぜひ、更新していくという部分でも力を入れていけたらいいなと思っています。

【原委員】 私は、小学生の子どもが二人いるのであれなんですけれども、実際、小学校とかに行って、子どもさんが、特に図形とか切り口とかを実際にそういうのを使ってやっているのを見て、ああ、理解度は増すだろうなというのは拝見して思ったんですが、その視点から広がってきているのは、子どもさんの中でも、結構塾に行ったりしているお子さんもいらっしゃるんですが、なかなかそういうところに行けなくて制限がかかっているお子さん方でも、結構、何回も動画を見たり、優秀なものを見るということで、結構格差とかを補えるのではないかなというのは、すごく期待しているところです。

【高島市長】 ありがとうございます。人によっては、予習的な部分を見るのが好きな子もいるかもしれないし、いろいろな活用をこれから期待します。

では、ICTを活用した教育の推進に関しては、皆様からのご意見をいただいたということで、是非、新しいシステムを使った中身を期待しておりますので、よろしく願いいたします。

【鈴木企画調整部長】 ご議論ありがとうございます。それでは、二つ目に入りたいと思います。

「能古小・中学校における小中一貫教育の開始」について、説明をお願いいたします。

【深堀指導部長】 それでは、能古小・中学校における小中一貫教育について説明をさせていただきます。

これにつきましては、先ほど市長からお話がありましたICTを活用することというのがございましたけれども、能古小・中学校で今現在ICTを使うのに長けている教員により作成した紹介用のビデオがございますので、これをもって説明に代えさせていただきますと思います。

(動画上映)

【鈴木企画調整部長】 ありがとうございます。時間の都合がございますので、三つ目の「教育相談・支援体制の充実」につきまして、教育委員会から引き続き説明をお願いいたします。

【深堀指導部長】 では、資料4に沿ってご説明させていただきます。

来年度より、LINEを活用した相談事業を行ってまいります。周りに相談することができない子どもたちが気軽に相談できる体制を構築し、いじめや不登校、虐待など、さまざまな問題の未然防止や早期発見を図ってまいります。

また、その相談には、研修を受けた臨床心理士などの資格を持った専門の相談員が子どもたちの気持ちに寄り添いながら対応していきます。また、命の危険などがある緊急時には速やかに警察や関係機関などと連携して子どもたちを守ってまいります。

続きまして、市立高校における通級指導教室の開設について、引き続きご説明をさせていただきます。

中学校において通級指導を受ける生徒数が年々増加している状況の中、市立高校におきましても、中学校までの学びとの連続性を確保しつつ、生徒一人一人の教育的ニーズに即した通級指導を開始してまいります。例えば、障害により対人関係を築くのが苦手、クラスの中で孤立しがちな生徒が友人のつき合い方、あるいは色々な関わり方など、ソーシャルスキルを継続的に学ぶことによって学習意欲を高めるとともに、自己肯定感を高めていけるようにしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

【青木教育支援部長】 引き続きまして、小中学校における医療的ケア支援についてご説明いたします。

いわゆる医療的ケアが日常的に必要な児童生徒への支援といたしましては、これまで特別支援学校に学校看護師を配置し、対応してまいりました。一方で、小中学校においても

医療的ケアを日常的に必要とする児童生徒が在籍しているという実情がございます。ほとんどの児童生徒は自分で医療的ケアを行っていますが、本人ができない場合は保護者がケアをしている状況でございます。このような医療的ケアが必要な子どもたちの教育機会を確保するとともに、保護者負担の軽減を図るため、小中学校にも来年度から看護師を配置し、対応を行うものでございます。

説明については以上でございます。

【鈴木企画調整部長】 説明ありがとうございます。二つまとめてになって大変恐縮でございますが、意見交換をお願いいたします。

【高島市長】 わかりました。能古の小・中学校に関しては、ご覧いただいたとおりで、大変期待していますし、特に三つ目の柱である地域、この能古島の特性を生かした地元の人との触れ合い、農業体験、または海を生かした体験、こうしたものが独自の教育としてどういう形で子どもたちの成長を後押ししてくれるかが本当に楽しみです。

それから、教育相談・支援体制の充実に関してですが、特に冒頭でも申しましたが、千葉県野田市の小学校4年生の児童の虐待ですね、やはり学校の先生を信用してSOSを発信したわけです。こうしたことを絶対に起こさないためにも、福岡市でも、教育委員会のいじめのアンケートの中に、これまで「その他」の自由記載のところがあって、そこに何かそれ以外のことがあれば書いていただくことになっていたんですが、教育長にお願いして、その欄の中で、家庭の中で親からのいじめを受けていないかと、いじめというか虐待ですが、そのSOSもしっかりキャッチできるように、より書きやすいような形でお願いして、そして児童相談所、学校、地域と、スクールソーシャルワーカーも全中学校に配置したわけですから、是非そうした連携を密にし、深めていただきたいと思います。教育委員会のほうから、この件に関してありましたらお願いします。

【深堀指導部長】 先ほどのアンケートの件ですけれども、あその後、速やかに学校のほうに周知させていただきまして、趣旨を十分理解した上で実施するようとしております。特に、低学年の子どもに関しては、内容がわかるようにしっかりと担任が言葉を添えて内容を説明しながら、安心して書けるようになるよう言っております。

【高島市長】 是非、よろしく申し上げます。

それから、SNS等を活用した新しい教育相談、それから色々な悩み相談も始まりますけれども、そういったものの中にも、学校のことだけではなくて、家庭のこととかも子どもたちが書けるように、是非項目を入れておいてください。お願いします。

それから、教育委員の皆さんから何かありましたら、ご発言をお願いします。

【木本委員】 SNSを利用した教育相談ということで、こういうふうにも子どもたちの声を拾う機会が増えるのは、すごくいいことだと思っています。ただ、そうやって待つだけではなくて、やはり大人が気づいてあげるという意味でも、学校にスクールソーシャルワーカー、カウンセラー、不登校対応教員ということで、教科担任とか学級担任以外にも大人の目がより増えたということ、私はとてもありがたいことだと思っています。そういうふうにも複数の大人の目で子どもたちのいじめとかの様子を察知して、それに気づいて声をかけてあげられるという、そちらからのアクセスも大事にしていきたいと思っています。

【高島市長】 ありがとうございます。町委員、どうぞ。

【町委員】 昨年からは非常に力を入れていただいたスクールソーシャルワーカーとかスクールカウンセラーは、全国に先駆けてかなり力を入れていただいた部分もあって、福岡の場合、今のところ大きな事件のようなものは起きていないんですが、こういったものを大事にして、LINEあたりとかまかせて子どもたちを守っていくことが大事になってくると思います。本当に学校現場の人たちが困っていること、親御さんたちが困っていることを、相談を受けてアドバイスができる人のところが非常に、こういうものをなくす大きな要因ではないかと思っています。その部分の予算化をしていただいて、ちゃんと確保していただいているのはありがたいなと思っています。ありがとうございます。

【高島市長】 そうですね。とにかく、網の目をたくさん張って、プッシュもするし、受ける体制、窓口をたくさんにすることで、一人もそこから漏れることなく、できるだけ網を細かく張っていくことで、一緒に協力していければと思っています。

その他、全般的なことも含めてございましたら、どうぞ。

【菊池委員】 時間がだんだん迫っているようではございますけれども、全般的なことで。

今学校現場は、一つは多忙化している現実がありますよね。そういう中で、教育委員会として学校の先生たちがいかに子どもと深くかかわっていけるか、色々な手段が出ましたけれども、それを含めて、学校の先生たちがとにかくしっかり子どもと会話をして、状況を把握してという学校体制を、これから教育委員会として、我々教育委員もそういった形で、色々なご意見を出させていただきたいと思っていますので、非常にいいことがたくさん出ましたので、今後もいい学校教育ができるんじゃないかと思っています。ありがとうございます。

【町委員】 では、もう一つだけ。先ほど、今は子どもを中心とした話が出たんですが、子どもを支えていただいている先生方の働き方改革をしっかりと私たちも一緒になって悩み、相談を受けたりして改善していかないことには、やっぱり先生方が疲れたなという状況ではいい教育もできないと思うんです。そここのところを、どうやったら解決できるか、よく現場に入って皆さんのご意見を伺って、こうしたらいいんだなということを、また施策の方に反映していけるように、私ども委員も頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

【阿部委員】 地域活動をしている委員の代表としてですけれども、先生方の働き方改革ということで、子どもたちとより深く触れ合う時間をつくるという視点と、私は、個人の先生が個人としてリフレッシュできているかという部分もあると思いますので、何か地域に任せられることとかがあるんだったら、学校側からは是非地域に向かって何か発信していただけたらいいなというのをいつも感じております。

【高島市長】 なるほど。事件が起きると閉ざしたり、また、開かれた学校になったりというので、学校の先生も大変だと思いますけれども、やっぱり学校だけで育つのではなくて、みんなで支え合っていくのが大切で、特に地域にお願いできる部分は、本当に学校から地域へ是非お話をしていただきたいし、そういう中で学校を介して地域の住民と関わっていくことも大事になってくると思います。そういったご意見をいただきました。

【星子教育長】 では、私のほうからも一言述べさせていただきます。

本日は、市長と意見を交換させていただいて、様々な考えもお聞かせいただきました。これらをもとに、しっかりと教育行政を新年度も推進していきたいと思っております。また、第2次教育振興基本計画が大綱となりますので、それらに向けてもしっかり教育委員会全員で取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございました。

【鈴木企画調整部長】 ありがとうございます。このあたりで終了させていただきたいと思えます。

閉会に当たりまして、高島市長からご挨拶をお願いいたします。

【高島市長】 これまで話してきたとおりでございますけれども、福岡市は毎年のように新しい学校が開校するというぐらい、児童数が非常に増えております。そしてまた、新しい市街地の開発なども進んでおりまして、学校が増えてきております。一方で、家庭の環境も多様化し、学校だけで抱え込むのが非常に大変な中で、やはりICTという新しい手段、手法というか、こうした選択肢も増えてきました。それから、地域との連携の大切

さの中で、まさにそれをこれから体現していこうという能古小中一貫校で、今日、皆さんとこういお話ができたのは、大変意義深いものだと思います。これからもそれぞれの立場から、教育委員の皆様にはご指導いただき、そして市長部局、教育委員会、みんなで力を合わせて子どもたちのために取組みを進めていければと思います。教育委員会の皆さん、大変期待しておりますので、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

【鈴木企画調整部長】 ありがとうございます。

これもちまして、平成30年度福岡市総合教育会議を終了いたします。皆様、ありがとうございました。

— 了 —